

令和5年度
学群編入学試験

【 医学群看護学類 】

区 分	出 題 意 図 ・ 正 解 例
<p>専門科目</p>	<p>問題 1</p> <p><出題意図></p> <p>臨床看護学、公衆衛生看護学の分野においては、がんの罹患者の現状や予防は基本的な事項である。(1) 男女別がんの罹患に関する基本的知識を問う。(2) 子宮頸がんの特徴と原因を踏まえた予防方法について知識と考えを問う。</p> <p><解答例></p> <p>(1)</p> <p>A：前立腺 B：胃 C：肝臓 D：乳房</p> <p>(2)</p> <p>子宮頸がんは、25-29 歳から急激に増加し、45-49 歳でピークとなる。その後、更年期から老年期にかけて緩やかに減少する。比較的若い世代に発症すること、生殖年齢の時期の罹患率が高いという特徴がある。</p> <p>1 次予防ではがんにならないようにすることが必要である。子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス (HPV) による感染である。これは、ウイルスを保有する人から性行為によって感染することが多い。性感染症予防としてコンドームを使用することが必要である。また、HPV に対する抗体を作るための HPV ワクチンが有効とされている。子宮頸がんは若い世代から罹患率が上昇するので、10 代からの性教育でこれらの情報を伝える必要がある。</p> <p>2 次予防では、子宮がん検診での早期発見が重要である。市町村から配布される検診のクーポンの使用を推奨すること、妊娠初期にはスクリーニングをするので、それをきっかけに定期的に検診をうけてもらうように促すなど、若い世代に対しての指導が必要である。</p>
	<p>問題 2</p> <p><出題の意図></p> <p>重症・救急患者家族の看護に関する問題である。生命の危機にさらされた患者の家族は、患者の状態を目の当たりにして強い動揺、不安、恐怖など精神的危機状態になる。モデルを用いて家族の心理・精神状態をアセスメントし、看護の実践に必要な基礎的な能力を問う。</p> <p>(1) アギユレラ(Aguilera,D.C.)とメジック(Messick,J.M.)の危機モデルを用いて、生命の危機的状態にある患者家族の心理・精神的な状態を説明しなさい。</p>

<解答例>

アギュララとメズィックの危機モデルは、危機の進展と解決に重大な影響を与えるバランス保持要因とよばれる3つの要因、①出来事に対する現実的な知覚、②ソーシャルサポート(適切な社会的支持)、③コーピングメカニズム(適切な対処機制)によって組み立てられている。人間はストレスに多い出来事に出会うと心身に不均衡状態が生じ、次いで均衡回復への切実なニーズを感じる。このとき、全てのバランス保持要因が適切な状態で存在すると問題は解決され、均衡状態を回復するが、何らかの要因に問題があったり、欠如したりしていると、不均衡状態が継続し危機に陥るとい

う。
A氏の妻は、夫の生命が危機的状態にあるという出来事を現実のものとして知覚することができておらず、状況を否定するような言動が見られている(不適切な出来事の知覚、ゆがんだ知覚)。妻は1人で状況に対処せざる終えない状況にあり(適切な社会的支持がない)、夫を失うかもしれないというストレスフルな出来事に対して病院を出ていこうとする行動(適切な対処機ではない)によって自我を守ろうとしている。

(2) (1)に基づき、A氏の妻に必要な看護ケアを述べなさい。

<解答例>

Aさんの妻は事故という思いもよらぬ現実、夫の生命が危機的状態にあるという状況に対峙し、精神的に激しく動揺し、現実を直視することが困難な状態にある。妻が現実的な知覚、適切な社会的支持、適切な対処行動がとれるような看護ケアが求められる。

- ・妻の感情を表出できるような環境(個室、待合室)を準備する
- ・妻の理解を援助するような落ち着いた環境(個室、待合室)を準備する
- ・妻の支えとなるような人物の存在を確認する
- ・看護師がいつでも側にいることを伝える。側にいるようにする
- ・医師から妻への説明の場に同席する
- ・患者の状態、状況、治療内容などについてこまめに情報提供をする
- ・妻が理解できる言葉で説明を行う
- ・家族(妻)が患者と一緒に面会できる機会を持つ
- ・家族(妻)が患者と一緒にいられる時間を確保する
- ・精神科医やリエゾン看護師などの専門家にケアを依頼する

問題3

<出題の意図>

文章を読み込む力と同時に、考えを論理的に述べる力を問う。

(1) なぜ、医療者は患者のヘルスリテラシーを理解しなければならないのか、説明しなさい。

<解答例>

患者が何かを決める時、さまざまな医療、健康情報を参考にする。しかしテレビや新聞、雑誌のニュース、インターネット上の情報の「うのみ」にすることは少なくない。時としてそれが明らかな誤解であったり、危うい情報であることもあり、通常の治療以上に問題のある情報が氾濫し、患者が益よりも害を被るリスクは否定できない。医療者は、患者が情報を求め、その情報を選択するそれぞれの理由や背景を尊重、理解することで、患者に合わせた医療を提供する関係を構築することができるようになり、結果、医療行為や治療アウトカムに望ましい影響を与えるため。

(2) 看護職のヘルスリテラシー能力を育成するためにはどうしたらよいか。具体的な例を挙げてあなたの考えを述べなさい。

<解答例>

ヘルスリテラシー能力を育成するためには、看護基礎教育において教育をすることが有用と考える。看護では基礎教育において看護過程を学ぶ。その思考過程を応用することで批判的リテラシーの能力が育成できるのではないかと考える。具体的には、たくさんある情報のなかで必要な情報を選択し、いま自分が入手している情報は科学的根拠のある情報なのか、情報はどこから発信されたものなのかを見極め、アセスメントし情報の信頼性や活用を判断する。その結果、情報が十分でなければさらに情報を吟味し、調べたり聞いたりコミュニケーションなどによって補足する。このように看護過程のサイクルはヘルスリテラシー、特に批判的ヘルスリテラシー能力を養う過程に有用であると考えため、看護基礎教育での教育を提案する。

令和 5 年度

試験名：学群編入学試験

【 医学群看護学類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文	<p>【出題意図】 新型出生前診断の年齢制限撤廃に関する英文の読解力と、その問題について考察する力、および妊婦への支援策に対する解答を通じて文章構成力と表現力を見る。</p> <p>問題 1. NIPT の年齢制限が撤廃される背景について本文の内容に即して説明しなさい。</p> <p>【解答例】 日本では、2013 年から NIPT スクリーニング検査を導入したが、検査の急速な普及がダウン症を含む障害者に対する差別の増加につながる可能性があるという懸念から、現在の制度では 35 歳以上の妊婦のみが認定施設で検査を受けることができる。年齢制限があったため多くの妊婦が血液検査の費用が安い認可外の施設で検査を受け、陽性結果が出た場合、認可外施設の多くは適切なフォローアップカウンセリングを実施するための設備が整っていないため、十分な結果の説明がないまま妊婦が混乱する問題が起きた。 新指針では、原則として超音波検査に基づいて染色体異常について知らされた高齢妊婦だけでなく、年齢に関係なく胎児について懸念を抱いている妊婦にも適用される。また、現在 NIPT の認可された 108 の医療機関のうち 21 は東京にあり、認可施設のない都道府県は 7 つある。地域格差を減らすことを目的に認可された医療機関の数を増やす決定がされた。</p> <p>問題 2. NIPT の年齢制限撤廃に関する問題とそれへの対応策について本文の内容に即して記述した上であなたの考えについて述べなさい。</p> <p>【解答例】 (問題) 施設によって説明や遺伝カウンセリングの質にばらつきがある。 (対応策) NIPT を受けるにあたり、適切なカウンセリングとテスト手順を提供できる専門スタッフと大学病院とが協力することが必要となる。また、認定施設には、臨床遺伝子スクリーニングに関する専門知識を持っているか、そのトレーニングを受けた専任の産婦人科医がいる必要がある。 (考え) 選ぶ施設によって説明内容やカウンセリングの質にばらつきがあることは、妊婦にとって混乱不安を助長させかねない。しかし初めから大学病院など規模の大きい医療機関を受診することにも抵抗感や困難さがあるため身近なクリニックを受診される方が多いだろう。これまでに認定を受けていた既存施設を基幹病院とし、新たに認定を受けた施設は基幹病院と協力連携していくことで、身近なクリニックを受診しても基幹病院と同等の説明やカウンセリングが受けられるようになると良いと考える。</p>